

上田市文化財調査報告書第106集

# 市 内 遺 跡

平成20年度市内遺跡発掘調査報告書

2009. 3

上 田 市  
上田市教育委員会

上田市文化財調査報告書第 106 集

# 市 内 遺 跡

平成 20 年度市内遺跡発掘調査報告書

2009. 3

上 田 市  
上田市教育委員会

## 例 言

- 1 本書は長野県上田市における各種開発事業に伴う平成20年度市内遺跡発掘調査報告書である。なお、上田市は平成18年3月6日に上田市、丸子町、真田町、武石村が合併して発足した。そのため、現在、埋蔵文化財分布図の統合作業を進めているところであり、本文中の遺跡番号等は合併前のものを引き続いて使用している。
- 2 調査は国庫補助事業として上田市（上田市教育委員会事務局文化振興課文化財保護係）が実施した。事業期間は報告書刊行を含めて、平成20年4月1日から平成21年3月24日までである。
- 3 現地調査は文化振興課文化財保護係 和根崎剛が行った。
- 4 試掘調査は主としてバックホーによるトレンチ調査を行った。なお、バックホーの賃貸借（運転含む）は、和農興・竹内和好と賃貸借単価契約を締結して行った。
- 5 本調査に係る資料は、上田市立信濃国分寺資料館に保管してある。
- 6 本調査にあたり、開発施工主等に調査実施に係る調整等、格段のご協力をいただいた。
- 7 本調査に係る事務局の体制は、次のとおりである。

教 育 長 森 大和 教 育 次 長 小菅 清  
文化振興課長 中部通男 文化財保護係長 小林栄子  
文化財保護係 中沢徳士・小林伝・和根崎剛

- 8 本調査に係る作業分担は次のとおりである。  
現地調査 和根崎・川西郷土研究会・長野県上田高等学校郷土班  
整理作業 和根崎・石田奈緒・上原祐子・滝澤百合香・竹之内綾・堀内通子  
写真撮影 和根崎
- 9 本調査に際し多くの方々のご指導ご協力を賜った。ご芳名を記して、深く感謝の意を表したい。（順不同・敬称略）

上田市浦野自治会の皆さん・上田市中丸子自治会の皆さん・川西郷土研究会・  
国立大学法人信州大学繊維学部・長野県上田高等学校・尾見智志・川上元・倉澤正幸・  
児玉卓文・櫻井松夫・助川朋広・時信武史・堀内薫・堀内信孝

- 10 本書の作成に係る引用・参考文献は次のとおりである。  
『上田市の原始・古代文化 埋蔵文化財分布調査報告書』 上田市教育委員会 昭和52（1977）年  
『丸子町誌』歴史編 丸子町誌刊行会 平成4（1992）年  
『真田町の遺跡 一遺跡詳細分布調査報告書一』 真田町教育委員会 平成12（2000）年  
『武石村誌』 武石村誌刊行会 平成元（1989）年  
『上田高校百年史』 上田高校百年史編纂委員会 平成12（2000）年  
『上田市誌』歴史編（5） 上田市誌編さん委員会 平成13（2001）年  
『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書2』—上田市内・坂城町内—（財）長野県文化埋蔵センターほか 平成10（1998）年  
『長野縣町村誌』 長野縣町村誌刊行会 昭和11（1936）年

※その他、各遺跡の発掘調査の経過及び成果について、上田市文化財調査報告書等を参考にした。

## <目 次>

(1) 上田城跡1 (耐震性防火水槽埋設工事) .....	1
(2) 八幡裏遺跡 (宅地造成) .....	3
(3) 上田城跡2 (分譲住宅建設) .....	5
(4) 伝・カクジ屋敷跡 (畑の開削) .....	7
(5) 浦野城跡・浦野古墳 (史跡公園整備) .....	9
(6) 染屋台条里水田跡遺跡 (家電量販店建設工事) .....	15
(7) 片羽遺跡 (児童館建設工事) .....	17
(8) 中丸子遺跡 (耐震性防火水槽埋設工事) .....	19
(9) 常入遺跡群 下町田遺跡 (信州大学繊維学部新校舎建設工事) .....	21
(10) 上田城跡3 (藩主居館跡) (上田高校合宿所改築工事) .....	23
(11) 御屋敷遺跡・真田氏館跡 (マレットゴルフ場開設) .....	25
出土遺物 .....	27
平成20年度試掘調査地点位置図 .....	29
染屋台条里水田跡遺跡における調査状況 .....	33
写真図版 .....	37
報告書抄録 .....	45

## (1) 上田城跡 1 (市遺跡番号 上田66)

1 調査地	上田市常盤城一丁目1番30号
2 原因	耐震性防火水槽の埋設工事
3 調査日	平成20年7月22日(火)
4 調査方法	0.2級バックホーで幅約1mのトレンチを2本掘削した
5 調査面積	78㎡(トレンチ26㎡)

### 遺跡の環境と経過

当該地は上田城二の丸の西側に隣接する小泉曲輪とされる場所で、百間堀と呼ばれる大堀の南側に接する。国史跡の範囲外で、周囲は市営球場や市民体育館などが所在する一帯であり、防火水槽の埋設計画地はこれら体育施設のアスファルト敷駐車場として利用されている。また、計画地には昭和40年代まで県蚕業試験場上田支校等の建物が所在した。

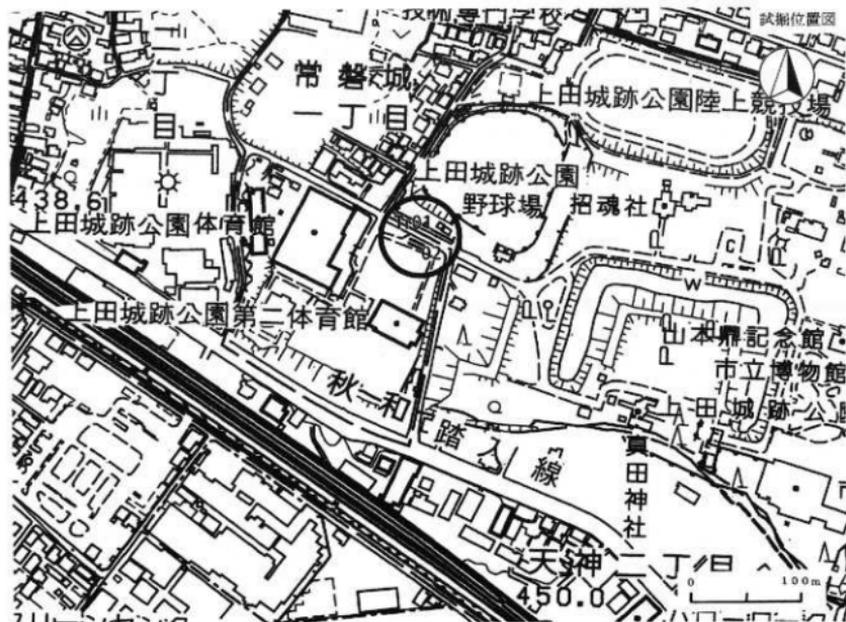
本試掘調査については、上田中央消防署から市内の防火水槽設置計画地4件について埋蔵文化財包蔵地の照会があったことに起因する。分布地図に基づく照合の結果、本件が包蔵地に該当することが判明した。埋設計画地が国史跡に隣接し、上田城跡を形成する曲輪内であることから、ただちに保護協議を行った。その結果、防火水槽の設置が防災上やむを得ないものであることを勘案し、事前に試掘調査を実施して埋蔵文化財が発見された場合には再度協議することで合意した。

### 調査の結果

試掘調査を行ったところ、上田城跡に関連する遺構・遺物は確認されなかった。

調査区内に1～2号トレンチ(Tr01～02)を設定した。両トレンチとも地下1.1m付近に地山層を検出したが、石垣の根石や溝状遺構などといった痕跡は確認されなかった。Tr01の東端からは、蚕業試験場等に関連すると思われる基礎石や瓦片、ガラス片などが集中して出土した。

以上の結果をふまえ、本発掘調査は必要ないものと判断した。



基本土層

(單位 cm)

Tr01	0
1	25
2	33
6	58
3	89
4	121
5	

Tr02	0
1	23
7	31
8	50
4	109
5	

- 1層：埋土1 (碎石)
- 2層：埋土2
- 3層：埋土3
- 4層：赤褐色土層
- 5層：暗褐色土層 (地山)
- 6層：埋土4
- 7層：埋土5
- 8層：埋土6

第1図 上田城跡 (耐震性防火水槽埋設工事)

## (2) 八幡裏遺跡 (市遺跡番号 上田64)

1 調査地	上田市緑ヶ丘一丁目1番7号
2 原因	工場移転後の用途変更 (宅地造成)
3 調査日	平成20年7月26日(土)・28日(月)・29日(火)
4 調査方法	0.4級バックホーで幅約1mのトレンチを6本掘削した
5 調査面積	9,000㎡ (トレンチ55㎡)

### 遺跡の環境と経過

八幡裏遺跡は太郎山南麓の黄金沢とその他の小河川により形成された扇状地端部に位置する。『上田市の原始・古代文化』によると、調査区域付近には、思川遺跡・大星前遺跡・海善寺裏遺跡・新田遺跡・道祖神遺跡・八幡東遺跡・八幡裏遺跡が所在する。これらは出土遺物の内容等から遺跡群として捉えられるもので、今回、遺跡の名称は上田市文化財分布図に基づく「八幡裏遺跡」としたが、むしろ「八幡裏遺跡群」とでも称すべきであろう。調査区域は周知の道祖神遺跡(調査区東部)と八幡裏遺跡(同西部)の範囲で、前者からは縄文土器や土師器、後者からは土師器の出土が知られている。また、八幡裏遺跡群ではこれまでに病院や道路建設に伴う発掘調査が6次におわたって行われており、縄文時代から平安時代までの遺構・遺物が確認されている。

本試掘調査については、土地所有者から工場移転後の埋蔵文化財の保護について相談があったことに起因する。以前発掘調査をした区域に隣接しており、地下に埋蔵文化財の存在が推定されたため、ただちに現地踏査及び保護協議を行った。その結果、試掘調査を実施し、遺構・遺物が発見された場合には再度協議することで合意した。

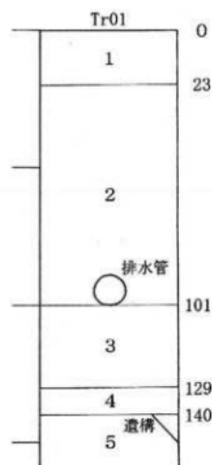
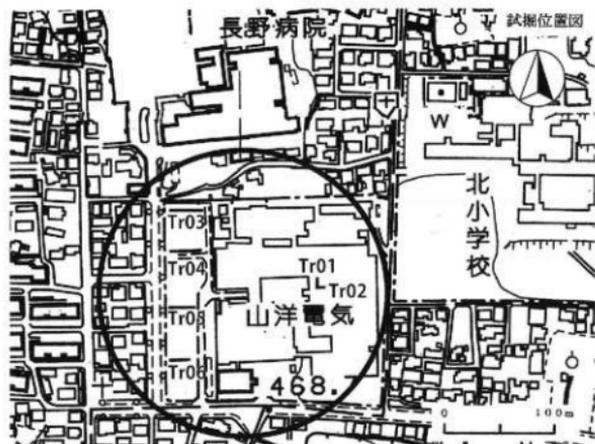
### 調査の結果

1～6号トレンチ(Tr01～06)を設定して調査を行った。調査区東部に設けたTr01及び02の掘削の結果、周辺は埋土がされているものの、地下1.4m前後に遺物包含層が残っており、遺構と推定される黒色土の落ち込みと土師器片等の出土をみた。戦時中に切土を伴う大きな改変をして作られた工場であるが、一部に埋蔵文化財が残存していることが明らかになった。一方、調査区西部であるが、現在は砕石敷(一部アスファルト舗装)の駐車場となっているが、かつては製糸工場が所在したことが知られている。北端部のTr03では遺構は確認されなかったが、その他のトレンチからは遺構と推定される黒色土の落ち込みと土師器片が出土した。製糸工場の建物が所在した箇所でも一部に遺物包含層が残っており、埋蔵文化財の遺存状況は比較的良好なものと推定される。

以上の経過をふまえ、工場移転の際に改めて保護協議を実施し、発掘調査等の保護措置を講ずることをお願いして試掘調査を終了した。

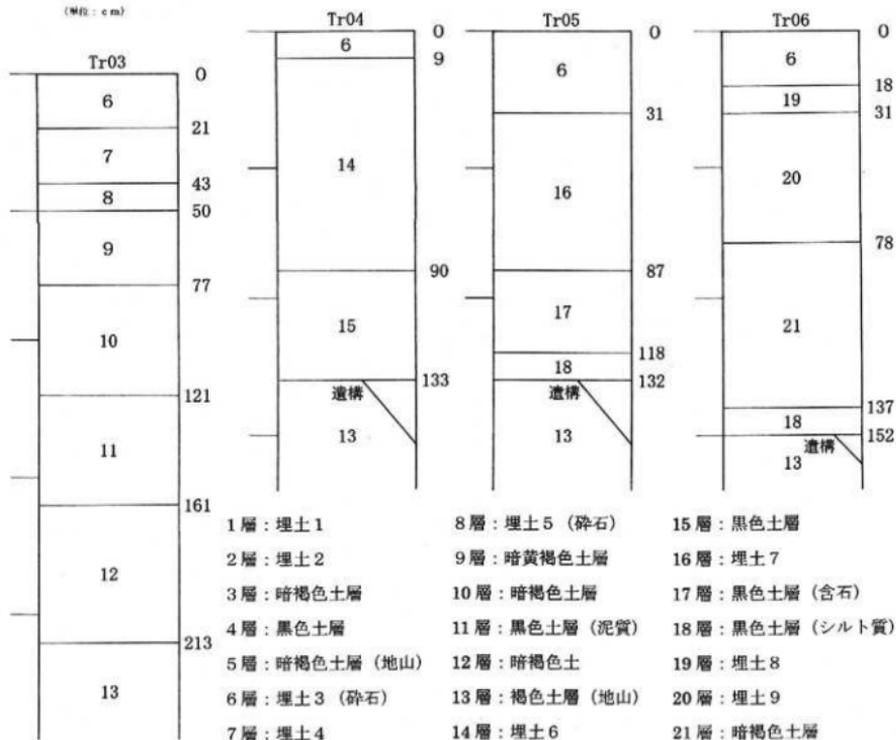
### 出土遺物 (埋蔵物発見届: 20文第230号)

検出した遺構に伴い、縄文土器(第14図-2)及び土師器(第14図-1・3)の破片が出土した。また、石器が1点出土した。



基本土層

(単位: cm)



第2図 八幡裏遺跡 (宅地造成)

### (3) 上田城跡2 (市遺跡番号 上田66)

1 調査地	上田市常盤城1856-2
2 原因	分譲住宅建設
3 調査日	平成20年10月30日 (木)
4 調査方法	0.2級バックホーで幅約1mのトレンチを1本掘削した
5 調査面積	2,588㎡ (トレンチ32㎡)

#### 遺跡の環境と経過

当該地は上田城尼ヶ淵堀の一角で、矢出沢川と千曲川の合流点に程近い場所である。尼ヶ淵堀はかつて千曲川の分流が北上した際に、城の南側を守る自然の要害として用いられたことが文献等から知られている。尼ヶ淵付近ではかつて、北陸新幹線の橋脚建設の際に長野県埋蔵文化財センターが調査を行ったが、遺構・遺物は発見されなかった。

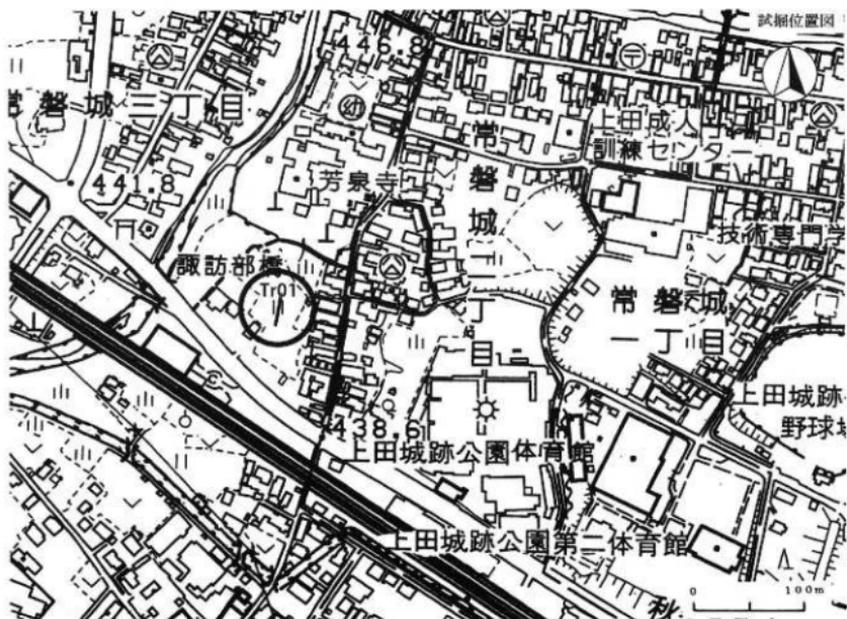
本試掘調査については、開発事業者から埋蔵文化財包蔵地の照会があり、計画地が該当する旨を伝え、ただちに保護協議を行った。その結果、試掘調査を実施し、遺構・遺物が発見された場合には再度協議することで合意した。

#### 調査の結果

試掘調査を行ったところ、埋蔵文化財は確認されなかった。ただし、河川に由来するものと推定される砂層や礫層を検出した。矢出沢川、あるいは千曲川が付近を流れていた当時の痕跡である可能性が高い。

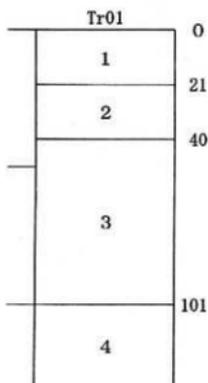
調査区内に1号トレンチ (Tr01) を設定した。トレンチ北端では水田由来土の下、地下1.0m付近から地山層を検出した。南方に掘削するにつれ、砂層や礫層がみられるようになり、南側に極緩く傾斜しているようすがうかがえた。掘削後、次第にトレンチ内に湧水がみられるようになり、南端部で特に著しい湧水がみられた。

以上の結果をふまえ、本発掘調査は必要ないものと判断した。



基本土層

(単位: cm)



- 1層: 耕作土
- 2層: 赤褐色土
- 3層: 黒褐色土層 (砂礫層)
- 4層: 暗褐色土層 (地山)

第3図 上田城跡 (分譲住宅建設)

#### (4) 伝・カクジ屋敷跡 (市遺跡番号 真田203)

1 調査地	上田市真田町傍陽字横通 (大倉)
2 原因	畑の開削
3 調査日	平成20年12月6日 (土)
4 調査方法	0.2級バックホーで幅約1mのトレンチを2本掘削した
5 調査面積	300㎡ (トレンチ18㎡)

#### 遺跡の環境と経過

伝・カクジ屋敷跡は平成19年に地元住民の情報をもとに現地調査を行い、新たに登録した包蔵地である。一帯には南向き斜面に石垣を積んで平坦地を造ったり、柵形状に石を並べた場所があり、地元では「カクジ屋敷」と呼ばれている。遺物は実見していないが、周辺からはかつて陶器が出土したという。このような情報に基づき、近接する遺跡から中近世の遺物が出土していることを勘案すると、本件においても埋蔵文化財が所在する可能性が認められた。

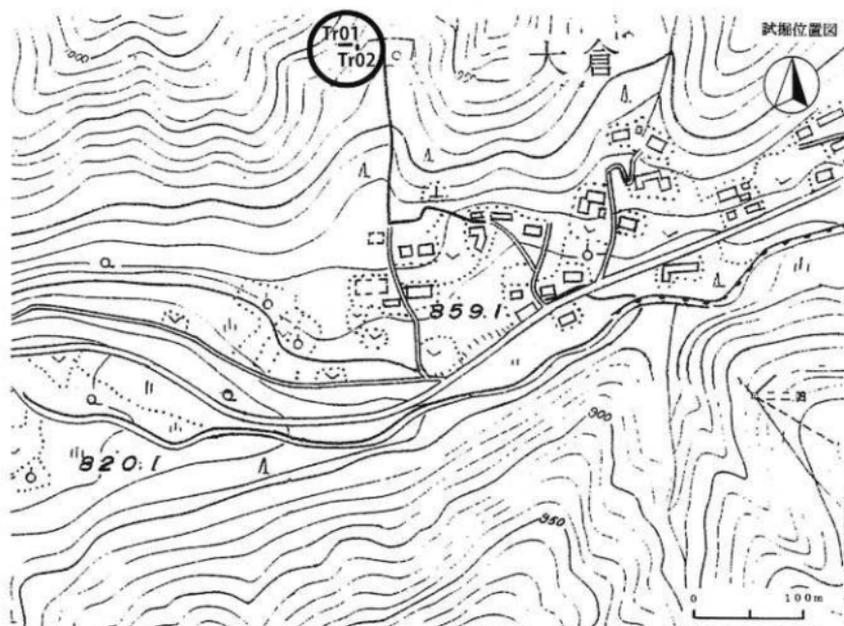
本試掘調査については、地権者から重機を用いて畑の開削をしたいと相談があったため、ただちに保護協議を行った。その結果、試掘調査を行い、遺構・遺物が確認された場合には改めて協議を行うことで合意した。

#### 調査の結果

石垣を積んで造った平坦面に1～2号トレンチ (Tr01～02) を設定して調査を行った。地表下0.7～0.9m程度で地山に到達したが、埋土をして平坦地を形成した痕跡を検出した。山の斜面に石垣で土留めをして平坦地を形成したものと推定された。また、Tr01の西端では、地下0.2～0.9mの間に暗渠と思われる集石を確認した。一帯はかつて桑畑あるいはりんご畑として利用されたことが判明しているが、規模や石垣を積む手間から考えると、この平坦面が畑として利用するために造られたものではないことは予想できる。屋敷を建てるために造った可能性も認められるが、今回の調査では瓦や礎石、什器などはいっさい検出されず、屋敷跡であることを積極的に認めうる証拠は確認できなかった。石垣も部分的に補修が加えられている様子がうかがえるが、近世後半以降の所産ではないかと推定される。また、計画地の踏査の結果、江戸後期の墓石を発見した。

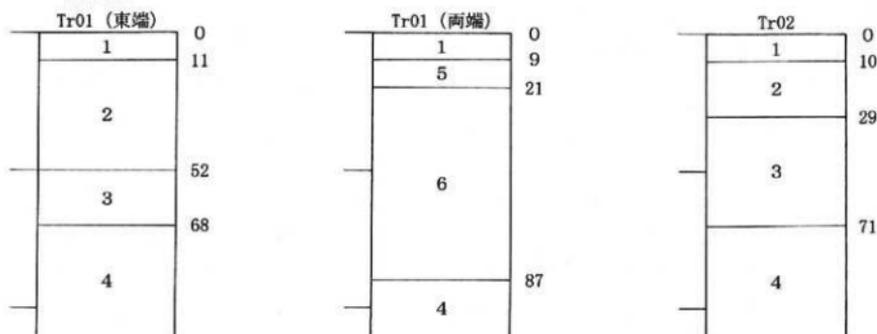
地形と現状、屋敷伝承、墓の存在を勘案すれば、近世以降に何らかの生活の場所であった可能性は高いが、調査では建物跡や遺物が検出されなかったため、調査区域周辺の発掘調査は実施しないこととし、試掘調査を終了した。

なお、計画地については地権者のご理解をいただき、石垣と柵形状の石列については現状保存することになった。



### 基本土層

(単位: cm)



1層: 耕作土

2層: 埋土1

3層: 暗褐色土層

4層: 明黄褐色土層 (地山)

5層: 埋土2

6層: 角礫充填層 (暗渠?)

第4図 伝・カクジ屋敷跡 (畑の開削)

## (5) 浦野城跡・浦野古墳 (市遺跡番号 上田430)

1 調査地	上田市浦野字古城
2 原因	浦野自治会による史跡公園整備
3 調査日	平成20年12月11日(木)・12日(金)・13日(土)
4 調査方法	0.1級バックホーで幅約0.5mのトレンチを14本掘削した
5 調査面積	11,829㎡(トレンチ139㎡)
6 発掘作業員	小山和宏・櫻井彰人・松井貞雄(川西郷土研究会) 多田雅文(浦野自治会長)

### 遺跡の環境と経過

浦野城跡は浦里小学校の裏山飯綱山の中腹・標高600m付近に位置し、南麓には居館跡や城下町が比定されている。これらの遺構は祢津氏の分族で、この一帯を支配した浦野氏が築いたものとされ、川西郷土研究会や浦野自治会により、継続的に保存整備が行われてきた。今回、試掘調査を行った部分は浦野城跡のうち、馬場跡と里伝される東西80m、南北60m程の長方形の平坦地で、周囲には段郭がめぐり、主郭の東側に位置する。一方、『上田市誌』歴史編(5)では、この遺構を諏訪社の神氏であった浦野氏が「御射山神事」を行った場所とし、馬場で小笠懸、相撲などの武芸を行い、階段状の土壇は観覧者の枕敷として造られたものとする。城跡からはこれまでに石臼の破片が何点か出土しており、これらは浦野公民館で保管されているが、かわらけや内耳土器の出土は知られていなかった。

浦野古墳は古墳時代後期の円墳と推定され、羨道が一部破壊されているものの、玄室は完全な形で遺存している。玄室はほぼ真北に軸をとり、片袖で規模は3.65×2.40(天井1.80)×1.70m、2枚の天井石が載っているものと思われる。出土遺物は知られていない。玄室には盗掘坑は見られないので、開口した際に大方の副葬品が持ち出されたものと考えられる。明治14年の記録には「穴室」としての記録がある。

本試掘調査は、浦野自治会から当該地を公園整備したいとの相談があったことに起因する。馬場内において東屋の建設と散策道の整備、花壇の設置などが計画されていたため、ただちに保護協議を実施し、整備着手前に試掘調査を実施することで承諾を得た。自治会の皆さんにより一帯のスギの除間伐が済んだ後に試掘調査を行い、遺構・遺物が発見された場合には整備計画について再度協議することで合意した。

### 調査の結果

馬場跡に12本、階段状の地形に2本のトレンチを設定し(Tr01~14)、遺構検出と馬場跡が人工物である痕跡を確認するために調査を行った。当該地が山中であり、通常の試掘調査よりも小型のバックホーを使用せざるを得なかったため、川西郷土研究会に遺構検出作業等の協力を得た。調査の結果、礎石建物跡と推定される遺構を2基(ST01・02)検出し、遺物も数多く出土し、予想以上の成果が得られた。

場所により深さには差があるが、地山層は硬質のローム層で、ST01はこの層の直上に設けられていた。Tr01~04で確認したST01からは、礎石1点、カマドのほか、生活面と推定される硬化面上に

焼土と炭化物の集中地点を複数確認し、かわらけ、内耳土器、常滑焼甕の破片が出土した。また、Tr01及び08～12で確認したST02からは、礎石1点とピット3基、焼土散布を1箇所確認し、かわらけと土師質土器を確認した。Tr05・06は階段状の地形が人工物であることを検証するために設定したが、Tr05では土留石と搬入土を叩き締めた痕跡が、Tr06でも切土をして段を造り、土留石を設置している痕跡が確認された。踏査及びTr01の観察結果から、こうした土留石は馬場跡の周囲のうち北辺と西辺のほぼ全域に所在するものと考えられる。Tr06では石臼の破片1点を検出している。Tr01及び13は馬場跡を南北及び東西方向に土層観察できるように設定した。その結果、この地が人の手によるものであり、ST02の検出状況から、もともと南東に緩く傾斜する地形を切り盛りして平坦にした後に、(そのタイミングは明瞭ではないが)建物が作られたものと推定した。Tr13では山中の石を用いて土留めとし、土を搬入した様子がうかがえた。浦野古墳が開口したのもこのときであると推定される。なお、馬場跡中央部にのみ存在する遺物包含層から、土師器(土師質土器)片、灰釉陶器片、縄文土器片などを検出した。馬場跡の西部に水の手とも考えられる湿地があり、周辺から土師質土器などを表面採集している。また、スサ混じりの焼成粘土塊が目立って出土したが、検出された遺構との関係は明確にはならなかった。

調査中は自治会関係者も多数訪れ、調査地の旧状などの聞き取りを併せて実施できたのは幸運であった。当該地は以前、桑畑などとして使用されたとのことである。掘削時に感じたことであるが、ほとんど石を含まない良質の耕作土が深くまで見られ、相当の深耕がされたことがうかがえる。

このように馬場跡あるいは御射山祭遺構とされる一帯には、中世の礎石建物跡が存在することが明らかとなり、地元自治会関係者及び川西郷土研究会との協議の結果、今回、調査を行った区域では遺構の保存を最優先として、東屋等の工作物及び新たな散策道の設置は行わず、掘削等を伴わない規模の整備のみを行うことになった。浦野古墳についても同様に現状のまま保存することとし、標柱の設置などを行う場合には再度協議することとした。

以上の経過をふまえ、本発掘調査は実施しないこととし、試掘調査を終了した。なお、試掘調査終了後の12月20日(土)に自治会主催で現地説明会を開催したところ、住民約50名の参加があったことを付記しておく。

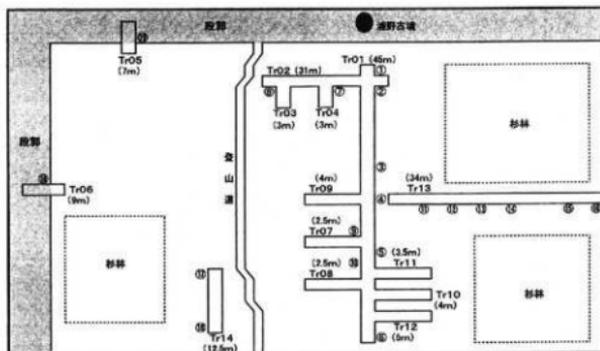
#### 出土遺物(埋蔵物発見届:20文第409号)

ST01・02に伴い、かわらけ、内耳土器(第14図-5)、常滑焼甕、土師質土器の破片が出土した。これらは15世紀後半から16世紀の遺物と考えられる。また、同時期のものと考えられる石臼の破片(第14図-6)が1点出土した。

包含層からは、糸切痕を残す土師器(土師質土器)の坏(第14図-4)、あるいはかわらけの底部破片が多く出土している。またごくわずかだが、灰釉陶器や縄文土器、黒っぽい釉薬の陶器の破片が出土した。

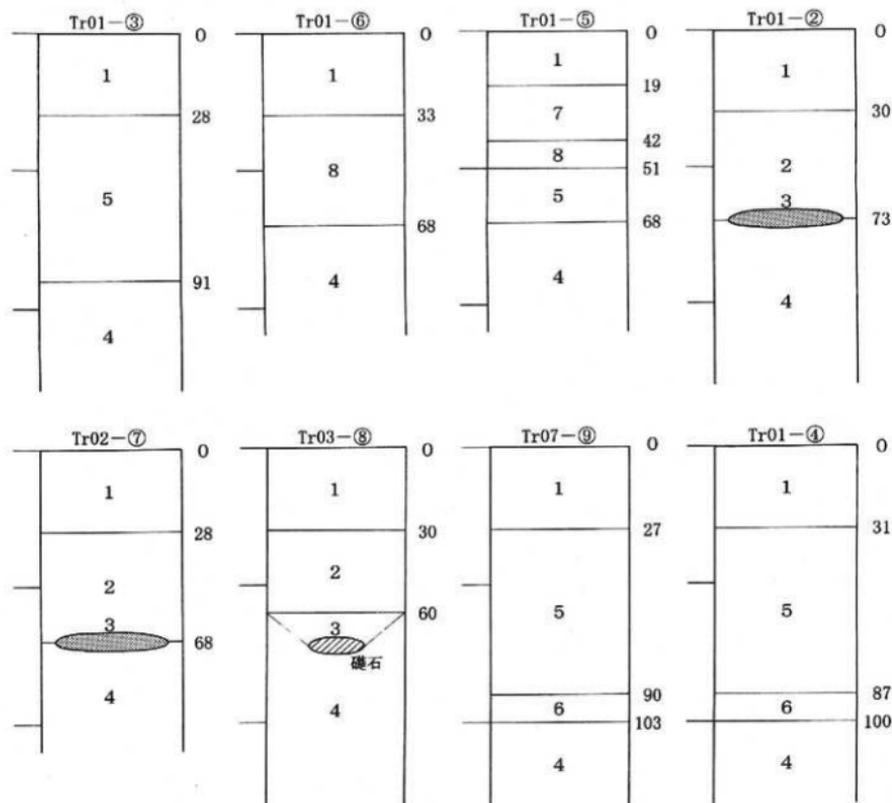
# トレンチ設定図

- ・ トレンチ幅は約0.5m
- ・ ○数字は土層観察地点

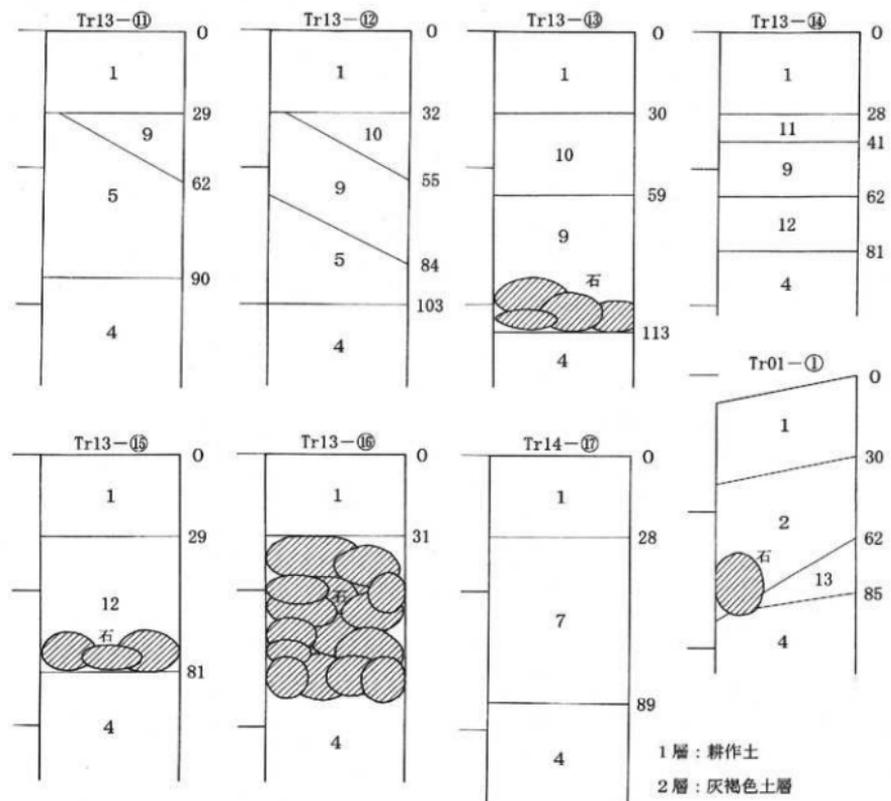


## 基本土層

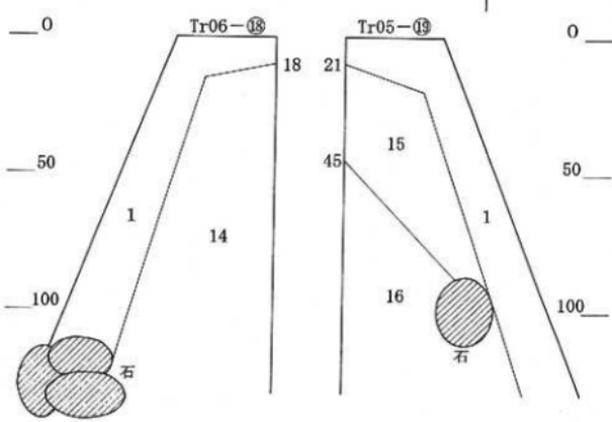
(単位: cm)



第5図 浦野城跡・浦野古墳 (史跡公園整備)



- 1層：耕作土
- 2層：灰褐色土層
- 3層：焼土
- 4層：明褐色土層（地山）
- 5層：暗褐色土層
- 6層：黑色土層（包含層）
- 7層：褐色土層
- 8層：暗黄褐色土層
- 9層：灰黄褐色土層（埋土？）
- 10層：灰褐色土層（埋土？）
- 11層：黑褐色土
- 12層：暗灰褐色土層（埋土？）
- 13層：明灰褐色土層（版築土）
- 14層：明褐色土層（地山）
- 15層：明褐色土層（版築土）
- 16層：黑褐色土層（版築土）



第6図 浦野城跡・浦野古墳（史跡公園整備）

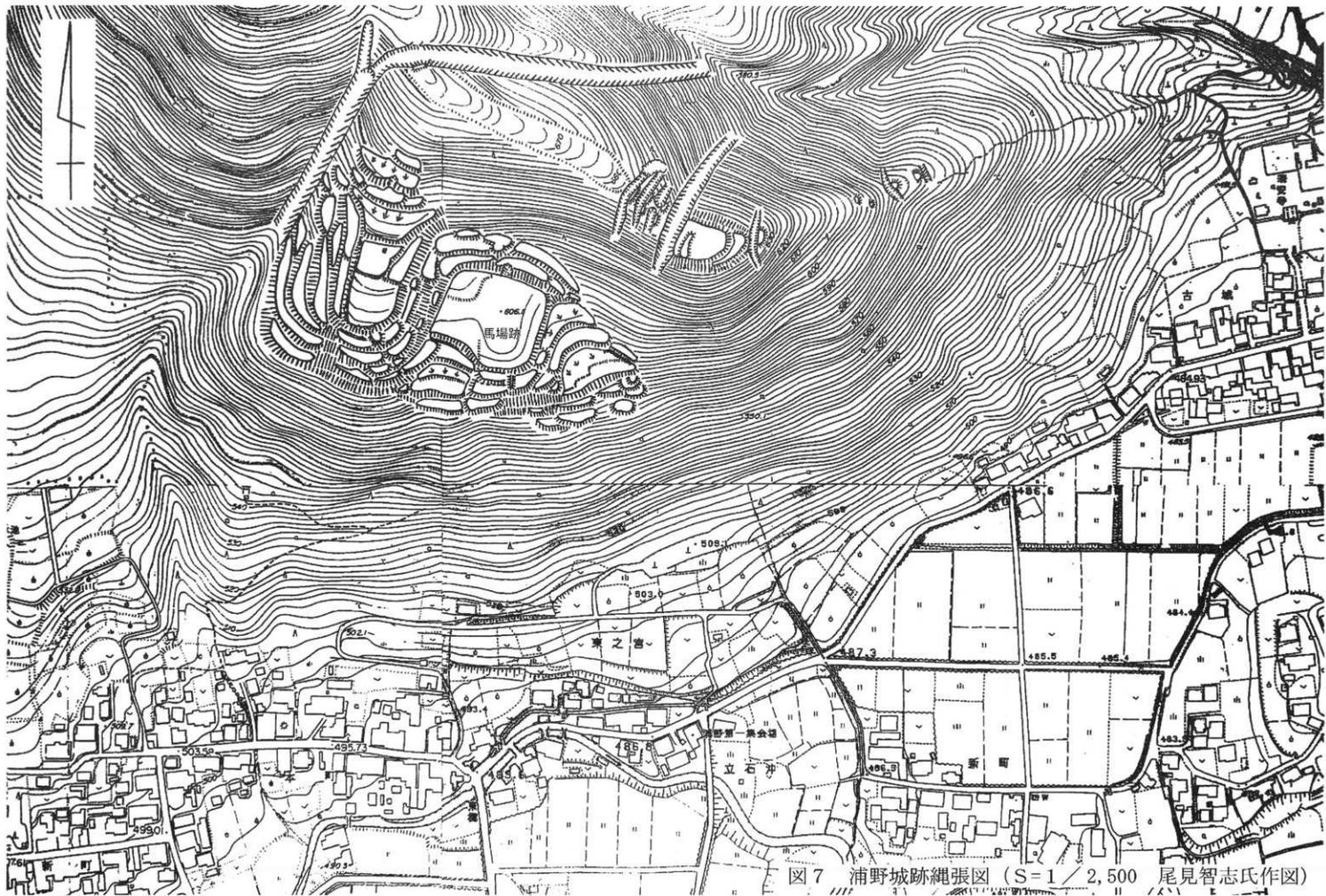


図7 浦野城跡縄張図 (S=1/2,500 尾見智志氏作図)

## (6) 染屋台条里水田跡遺跡 (市遺跡番号 上田52)

1 調査地	上田市古里字大畑1993-1
2 原因	家電量販店の建設
3 調査日	平成20年12月22日(月)
4 調査方法	0.4級バックホーで幅約1mのトレンチを2本掘削した
5 調査面積	12,755㎡(トレンチ30㎡)

### 遺跡の環境と経過

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市の北東部で千曲川と神川によって形成された河岸段丘上に位置する。この台地は、通称染屋台と呼ばれている。上田市の遺跡分布図では台地全体が条里水田跡として括られており、条里水田跡以外の詳細な遺跡分布調査はなされていない。しかしながら、今までも幾つかの遺跡が試掘調査等によって確認されており、台地上の遺跡の状況も解明されつつある(第18図・表1)。

本件については10月15日に開発事業届に係る現地調査を行い、開発事業者に計画地が包蔵地の範囲であることを伝え、保護協議を行った。その結果、試掘調査を実施し、遺構・遺物が発見された場合には再度協議することで合意した。

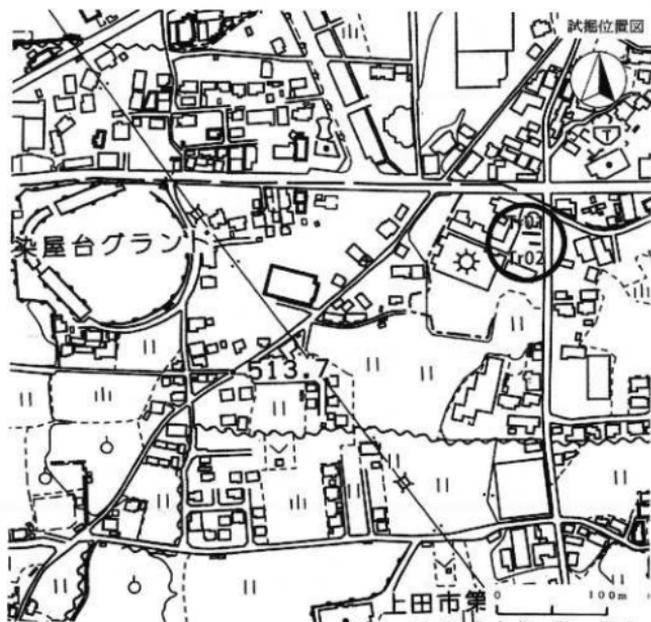
なお、今回の工事計画地については、平成17年度に遊技場の建設計画があった際に南部分の試掘調査を実施済みである。

### 調査の結果

関係者立会いのもと試掘調査を行ったが、遺構・遺物等は確認できなかった。

調査区内に1～2号トレンチ(Tr01～02)を設定した。1.3m程度掘り下げると地山層が確認できたが、水田由来土の上に、厚い埋土層がみられた。こうした状況は計画地南部の試掘調査の結果、及び西側に接する国道18号線上田バイパス改良工事に伴う試掘調査(平成19年度)の結果とも一致し、計画地周辺は大規模な盛土がされていることが明らかになった。

以上の経過をふまえ、発掘調査は実施しないこととし、試掘調査を終了した。



基本土層

(単位: cm)

Tr01		
1	0	
2	29	
3	52	
4	81	
5	107	
6	142	

Tr01		
1	0	
7	20	
3	39	
5	78	
6	120	

Tr02		
1	0	
8	19	
9	31	
3	41	
4	78	
5	112	
6	129	

- 1層: 表土
- 2層: 埋土1
- 3層: 埋土2
- 4層: 埋土3
- 5層: 暗灰褐色土層
- 6層: 青灰褐色土層 (地山)
- 7層: 埋土4
- 8層: 埋土5
- 9層: 埋土6 (碎石)

第8図 染屋台条里水田跡遺跡 (家電量販店建設工事)

## (7) 片羽遺跡 (市遺跡番号 武石20)

1 調査地	上田市上武石字片羽688番地
2 原因	児童館建設工事
3 調査日	平成21年1月30日(金)
4 調査方法	0.2級バックホーで幅約1mのトレンチを2本掘削した
5 調査面積	4,300㎡(トレンチ36㎡)

### 遺跡の環境と経過

片羽遺跡は武石川によって形成された第1河岸段丘上に位置する。『武石村誌』には、遺跡からは縄文時代中期後葉の加曽利E式土器や平安時代の土師器などが発見されているが、場所が特定できないとある。また、計画地は中世以降の大井氏屋敷跡の伝承があり、付近には枡形や水路など館跡との関連がうかがえるものもみられる。

本件については、「平成21年度以降の公共事業に係る埋蔵文化財等の保護について(照会)」に基づき、上田市教育委員会武石地域教育事務所からの回答を確認したところ、児童館建設事業が包蔵地内で施工されることが判明したため、保護協議を実施し、既存建物を解体したところで試掘調査を行い、遺構・遺物が発見された場合には再度協議することで合意した。

### 調査の結果

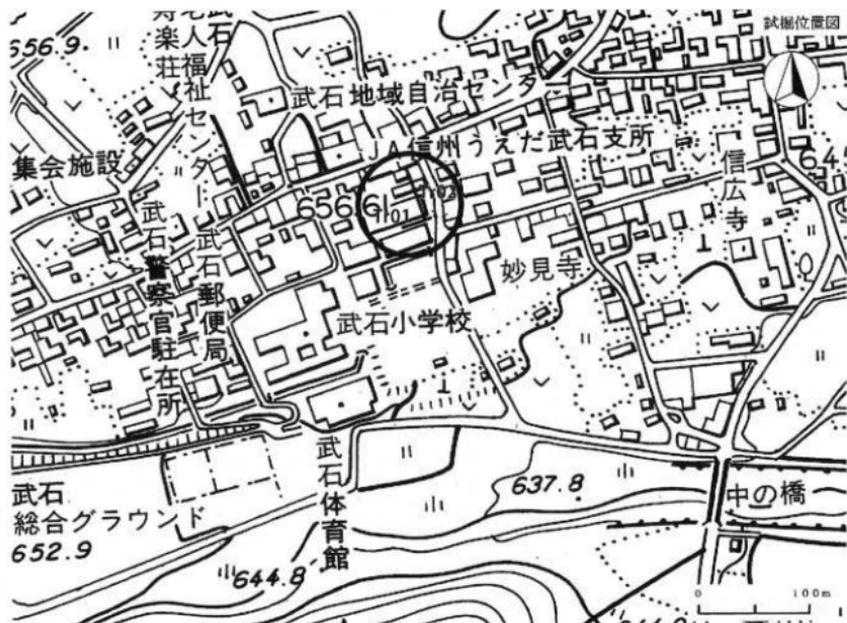
計画地は土地の削平と盛土が著しく、ほぼ全域に建物があつたため、地中は大きく攪乱されており、盛土部分を中心に試掘調査を行ったが、遺構・遺物等は確認できなかった。

調査区内に1～2号トレンチ(Tr01～02)を設定した。0.4～0.7m程度掘り下げると地山層が確認できたが、一部で土器の出土をみたものの、遺構は確認できず、ほとんどの区域で地山まで石混じりの盛土がされていた。

以上の経過をふまえ、発掘調査は実施しないこととし、試掘調査を終了した。

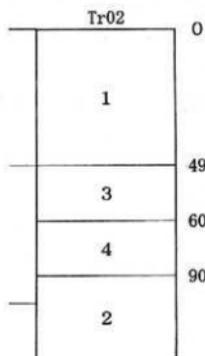
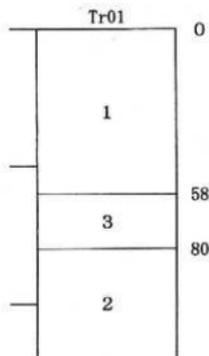
### 出土遺物(埋蔵物発見届:20文第472号)

トレンチ内から縄文土器の破片が出土した。



基本土層

(単位: cm)



- 1層: 埋土
- 2層: 明黄褐色土 (地山)
- 3層: 暗褐色土層
- 4層: 赤褐色土層

第9図 片羽遺跡 (児童館建設工事)

## (8) 中丸子遺跡 (市遺跡番号 丸子119)

1 調査地	上田市 中丸子1176-4
2 原因	耐震性防火水槽埋設
3 調査日	平成21年2月3日(火)
4 調査方法	0.2級バックホーで幅任意のトレンチを1本掘削した
5 調査面積	72㎡ (トレンチ26㎡)

### 遺跡の環境と経過

中丸子遺跡は依田川の東側に形成された第2段丘面に所在する。『丸子町誌』歴史編上には「洲崎・隅田・開戸・沢田などを総称して中丸子遺跡と呼んでいる」とあり、かつて開戸地籍で縄文時代中期(加曾利E式)の住居跡が、上事に見つかったという。遺物は縄文土器のほか、弥生後期の箱清水式土器や、平安時代の土師器、須恵器が出土しているとの記述があり、事前の表面採集でもその事実が確認された。

本件については、「平成21年度以降の公共事業に係る埋蔵文化財等の保護について(照会)」に基づき、丸子消防署からの回答を確認したところ、包蔵地内に耐震性防火水槽を埋設する計画があることが判明した。保護協議の結果、試掘調査を行って遺構・遺物が発見された場合には再度協議することで合意した。

### 調査の結果

1号トレンチ(Tr01)を設定して調査を行った。掘削を開始したところ、トレンチ南側では、地下0.9m程まで埋土がされ、その下にわずかに遺物を含む層が残っていることに気付いた。また、焼土と粘土、立石の存在を認めたため慎重に掘り下げた。完掘の結果、Tr01の北側半分は、かつて保育園のプールがあった場所にあたり、地山まで攪乱を受けていたため、北側を直ちに埋め戻し、Tr01の南半分を防火水槽埋設のため掘削する範囲の幅を広げて掘削し、調査を行った。その結果、焼土付近には住居跡のカマドが残存し、周囲の床面が遺存していることが分かった。精査したところ、カマド前方にて古墳時代初頭の特殊器台の大破片が出土した。ただし、周囲は地下深くまで攪乱されており、カマド周辺以外は残存していなかった。

工事が及ぶ範囲は完掘したため、協議の結果、本発掘調査は実施しないこととし、慎重工事を依頼して試掘調査を終了した。

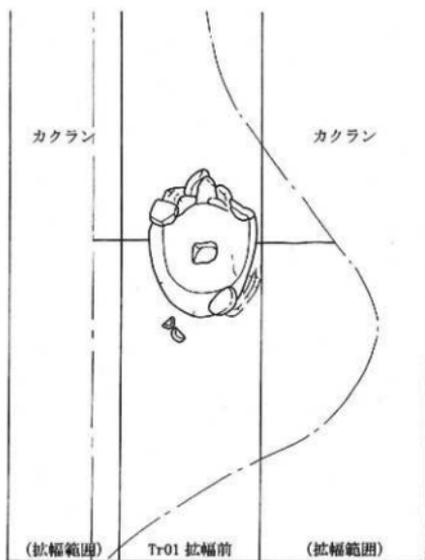
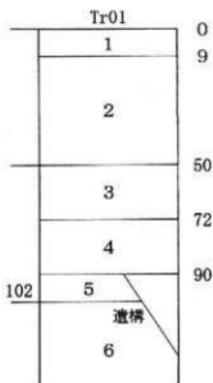
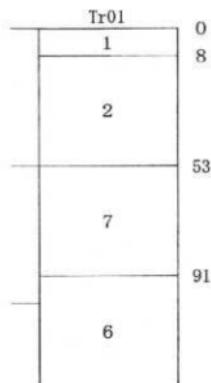
### 出土遺物(埋蔵物発見届:20文第475号)

トレンチ内から古墳時代初頭の特殊器台(第15図-1)のほか、土師器(第15図-2・3)、縄文土器(第15図-5)、弥生土器(第15図-4)などが出土した。



### 基本土層

(単位: cm)



1号住居跡平面図 (S=1/10)

- 1層: 表土
- 2層: 埋土1
- 3層: 埋土2
- 4層: 埋土3
- 5層: 暗褐色土層
- 6層: 褐色土層 (地山)
- 7層: 埋土4

第10図 中丸子遺跡 (耐震性防火水槽埋設工事)

## (9) 常入遺跡群 下町田遺跡 (市遺跡番号 上田57)

1 調査地	上田市常田三丁目15番1号
2 原因	信州大学繊維学部新校舎建設
3 調査日	平成21年2月4日(水)
4 調査方法	0.2級バックホーで幅1mのトレンチを6本掘削した
5 調査面積	900㎡(トレンチ23㎡)

### 遺跡の環境と経過

常入遺跡群は常田池の周辺に広がる遺跡群で、『上田市の原始・古代文化』には、「信州大学繊維学部敷地の中央部から、常田池の南方にかけて、東西およそ650m、南北およそ400mの広範囲な地籍」に、上町田・西町田・下町田・中村・手筒山・東町田・藤ノ森遺跡があり、いずれも弥生時代後期の箱清水式土器、土師器、須恵器を出土するとある。

今回の試掘調査地は、平成11、12、15年に信州大学の委託を受け、上田市教育委員会が発掘調査をした区域に挟まれており、その際に弥生時代後期の集落跡が検出されていることから、同様の遺構・遺物の出土が予想された。

本試掘調査については、信州大学繊維学部から試掘調査の依頼があり、実施した。遺構・遺物が発見された場合には再度協議することで合意した。

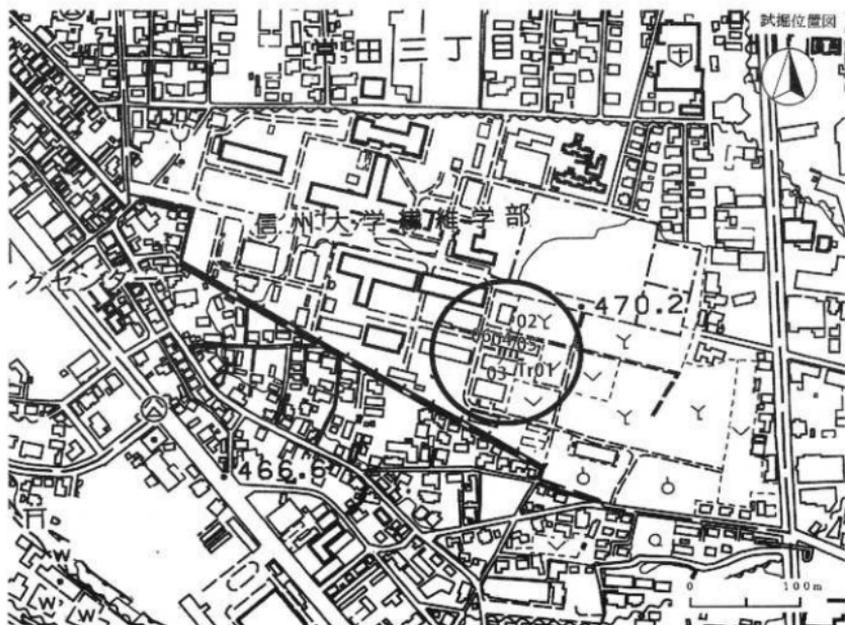
### 調査の結果

調査区内に1～6号トレンチ(Tr01～06)を設定して調査を行った。どのトレンチも地下0.6m程度に地山が認められ、Tr01、03、04、06から住居跡や土坑と推定される遺構と、箱清水式土器の破片が出土した。今回、試掘をした区域は畑として利用されており、遺構の遺存度が良かったものと推定される。

なお、建設予定地には、木造建物が残っており、解体後、再度試掘を実施して遺構の密度等を確認することで合意した。

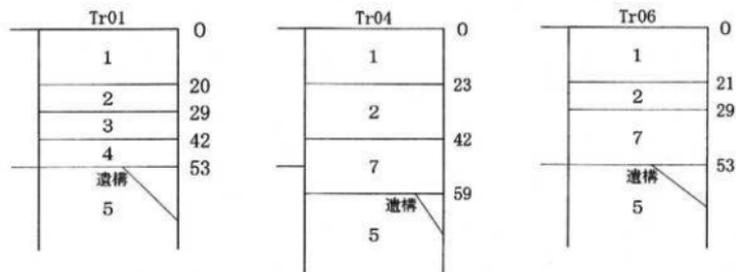
### 出土遺物(埋蔵物発見届:20文第476号)

トレンチ内から弥生時代後期の箱清水式土器(第16図-7・8)が出土した。



基本土層

(単位: cm)



- 1層: 耕作土/表土
- 2層: 暗褐色土層
- 3層: 褐色土層
- 4層: 黒褐色土層
- 5層: 暗褐色土層 (地山)
- 6層: 灰褐色土層

第11図 常入遺跡群 下町田遺跡 (信州大学繊維学部新校舎建設工事)

### (10) 上田城跡3 (藩主居館跡) (市遺跡番号 上田66)

1 調査地	上田市常大手一丁目4番32号
2 原因	高校合宿所の改築工事
3 調査日	平成21年2月6日(金)・7日(土)
4 調査方法	0.2級バックホーで幅任意のトレンチを5本掘削した
5 調査面積	115㎡(トレンチ48㎡)
6 調査参加者	上田高校郷土班 祿津宗伸先生(顧問) 石塚友・安藤多衣子・柳澤亜梨沙

#### 遺跡の環境と経過

当該地は上田城跡三の丸に所在する上田藩主居館跡で、現在は長野県上田高等学校の校地となっている。敷地内の発掘調査は、平成2(1990)年に第二体育館解体新築工事の際に行われているが、攪乱が著しく、藩主居館に関する遺構・遺物は発見されなかった。なお、関連する遺構は、堀跡と土塁(真田氏の頃?)、表門(寛政2年1790再建)、土塀(文久3年1863)が残っており、上田市指定文化財となっている。

本件については、「平成21年度以降の公共事業に係る埋蔵文化財等の保護について(照会)」に基づき、長野県教育委員会高校教育課からの回答を確認したところ、包蔵地内で合宿所を改築する計画があることが判明したため、保護協議を実施したところ、試掘調査を行って遺構・遺物が発見された場合には再度協議することで合意した。新合宿所計画地は古図によれば、かつて堀や土塁、土蔵が所在したとされる場所で、先日まで、昭和5年に建設された木造の旧合宿所があった。

#### 調査の結果

調査区内に1～5号トレンチ(Tr01～05)を設定した。

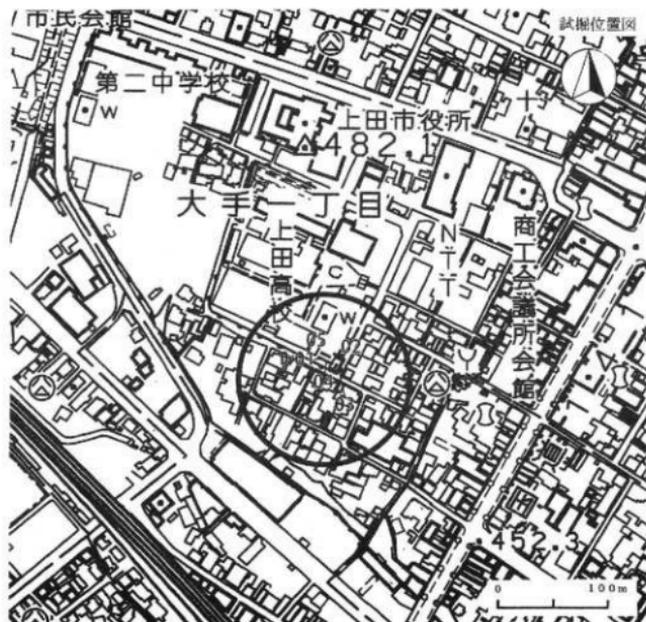
計画地は大きく攪乱されていたが、2号トレンチ(Tr02)から堀跡と、それに伴う排水施設、4号トレンチ(Tr04)から石垣が確認された。明治36年の上田中学の図には、2号トレンチを掘削した地点には堀が描かれており、今回検出した遺構は堀と考えて差し支えないだろう。また、土蔵が所在した付近に設定した1号トレンチ(Tr01)の掘削土中から、江戸時代後期の丸瓦と軒瓦片が発見された。また、調査区全域から、陶器片が多数出土し、縄文時代の石器も出土した。陶器片の判定は今後の課題とした。

以上の結果をふまえ、工事着工前に本発掘調査を行うことで合意した。

なお、調査に上田高校郷土班3名と顧問の祿津先生が参加していただき、トレンチ壁面の調査と遺物の採集に協力していただいた。

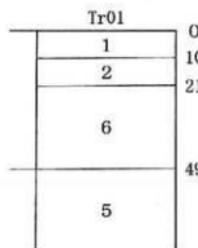
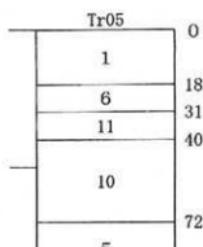
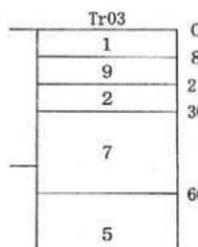
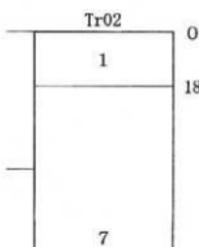
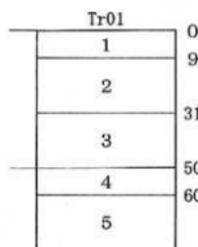
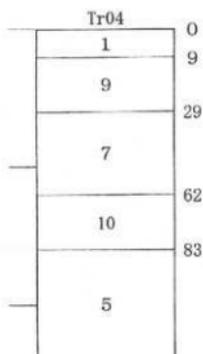
#### 出土遺物(埋蔵物発見届:20文第482号)

トレンチ内から江戸時代後期の丸瓦と軒瓦片(第15図-6・9)のほか、多数の陶器片などが出土した。



基本土層

(単位 cm)



- 1層：表土
- 2層：埋土1
- 3層：埋土2
- 4層：埋土3
- 5層：暗褐色土層 (地山)
- 6層：埋土4
- 7層：埋土5
- 8層：黒色土層 (泥質)
- 9層：埋土6 (漆喰土壁の痕)
- 10層：暗褐色土層
- 11層：黄褐色土層 (シルト質)

第12図 上田城跡 (上田高校合宿所改築工事)

## (11) 御屋敷遺跡・真田氏館跡（市遺跡番号 真田179）

1 調査地	上田市真田町本原字御屋敷3088-1
2 原因	マレットゴルフ場の開設
3 調査日	平成21年2月12日（木）・13日（金）
4 調査方法	0.2級バックホーで幅約1mのトレンチを8本掘削した
5 調査面積	1,502㎡（トレンチ75㎡）

### 遺跡の環境と経過

御屋敷遺跡は、平成元年に行われた県史跡・真田氏館跡の発掘調査の際に、縄文時代前期の土器片が館跡の一角から集中して出土したことにより登録された遺跡である。ただし、遺跡の範囲は明確でなく、館跡造成の際に客土の中に土器片が混入した可能性も否定できない。試掘調査範囲は大沢川の氾濫原にあたり、かつては館の堀として利用されたと考えられる一帯である。そのため、堀・館に関連する遺構と遺物の確認、及び御屋敷遺跡の範囲確認を目的に試掘調査を実施することとした。

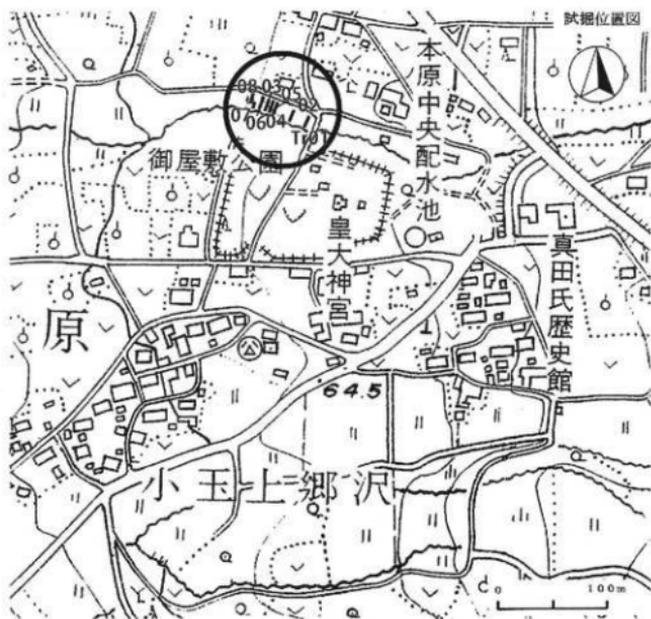
本件については、上田市真田地域自治センター産業観光課から、盛土をしてマレットゴルフ場を開設したいとの相談があり、ただちに保護協議を行った。その結果、試掘調査を行い、遺構・遺物が確認された場合には改めて協議を行うことで合意した。

### 調査の結果

計画地に1～8号トレンチ（Tr01～08）を設定して調査を行った。全てのトレンチにおいて、水田を造成した際の盛土が検出され、直下で大沢川に起因するとみられる石や小石、砂が主体となる層が確認された。しかし、6号トレンチ（Tr06）と8号トレンチで、堀の法面ではないかと推定される痕跡を確認した。地山を切り、堀の法面を作っているようで、黒色土等が法面と推定されるラインに沿って堆積していた。Tr06での最大の深さは地表から1.7m程あった。現在見ることができない法面は石垣が築かれ、地層の様子を確認することができなかったが、かつての堀を大きく改変し、計画地一帯を耕地として造成したものと考えられる。

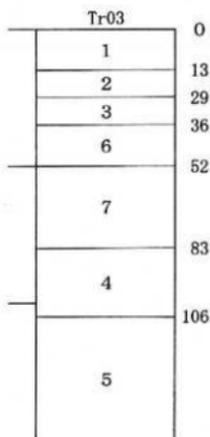
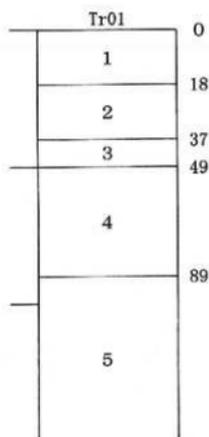
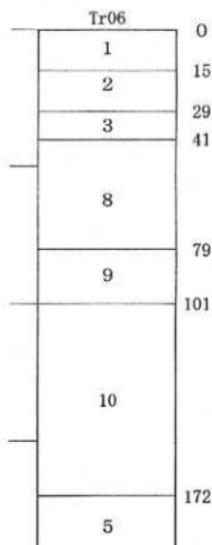
地形と現状を勘案すれば、堀跡の痕跡である可能性は高いが、埋めている上が水成層とは考えにくい、ふかふかした柔らかい土である。石などはほとんど混じらない。空堀であったとしても、何とも違和感のある土で、直ちにこれを堀の痕跡と考えるのも慎重にならざるを得ない。

なお、計画地については盛土をしてマレットゴルフ場を開設するとのことで、堀の遺構と推定される部分には影響を及ぼさないことから、工事立会いを実施するというので、本発掘調査は実施しないこととした。



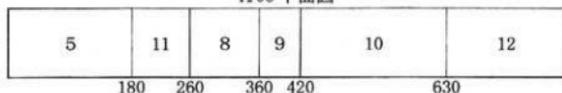
基本土層

(単位: cm)



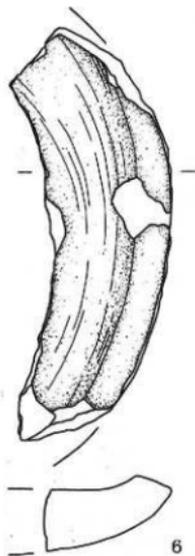
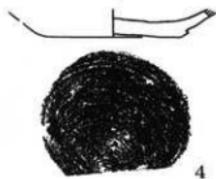
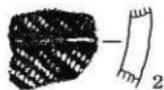
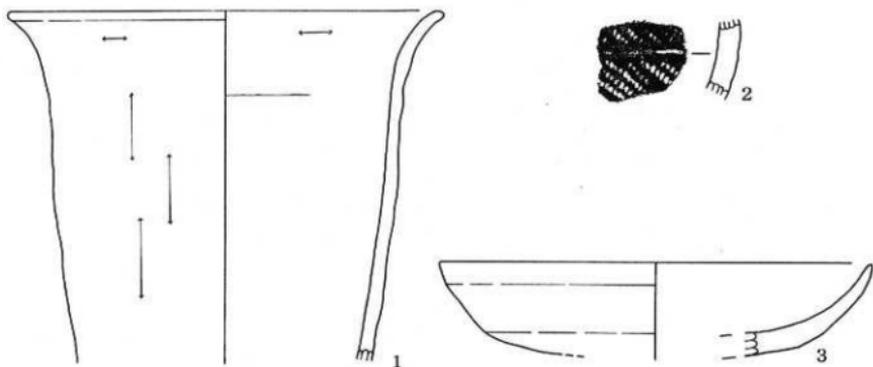
- 1層: 耕作土
- 2層: 埋土1
- 3層: 埋土2 (5層由来?)
- 4層: 暗褐色土層  
(砂・小石・石が混じる)
- 5層: 赤褐色土層 (地山)
- 6層: 埋土3
- 7層: 埋土4
- 8層: 暗褐色土層
- 9層: 黒褐色土層
- 10層: 黒色土層
- 11層: 暗黄褐色土層
- 12層: 埋土5

Tr08 平面図



(大沢川)

(石垣) 第13図 御屋敷遺跡・真田氏館跡 (マレットゴルフ場開設)

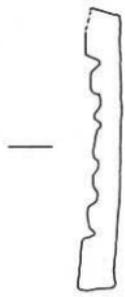
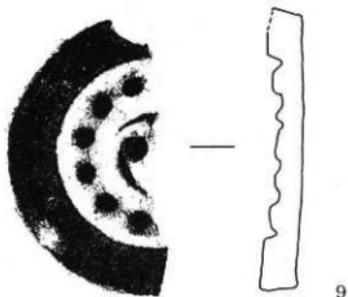
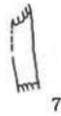
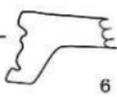
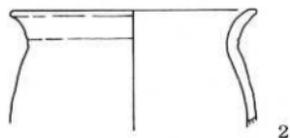
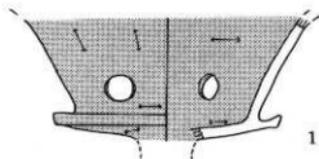


1～3：八幡裏遺跡

4～6：浦野城跡

(S=1/3、3・4は1/2)

第14図 試掘調査出土遺物 その1



1～5：中丸子遺跡

6・9：上田城跡（藩主居館跡）

7・8：常入遺跡群下町田遺跡

(S=1/3)

第15図 試掘調査出土遺物 その2

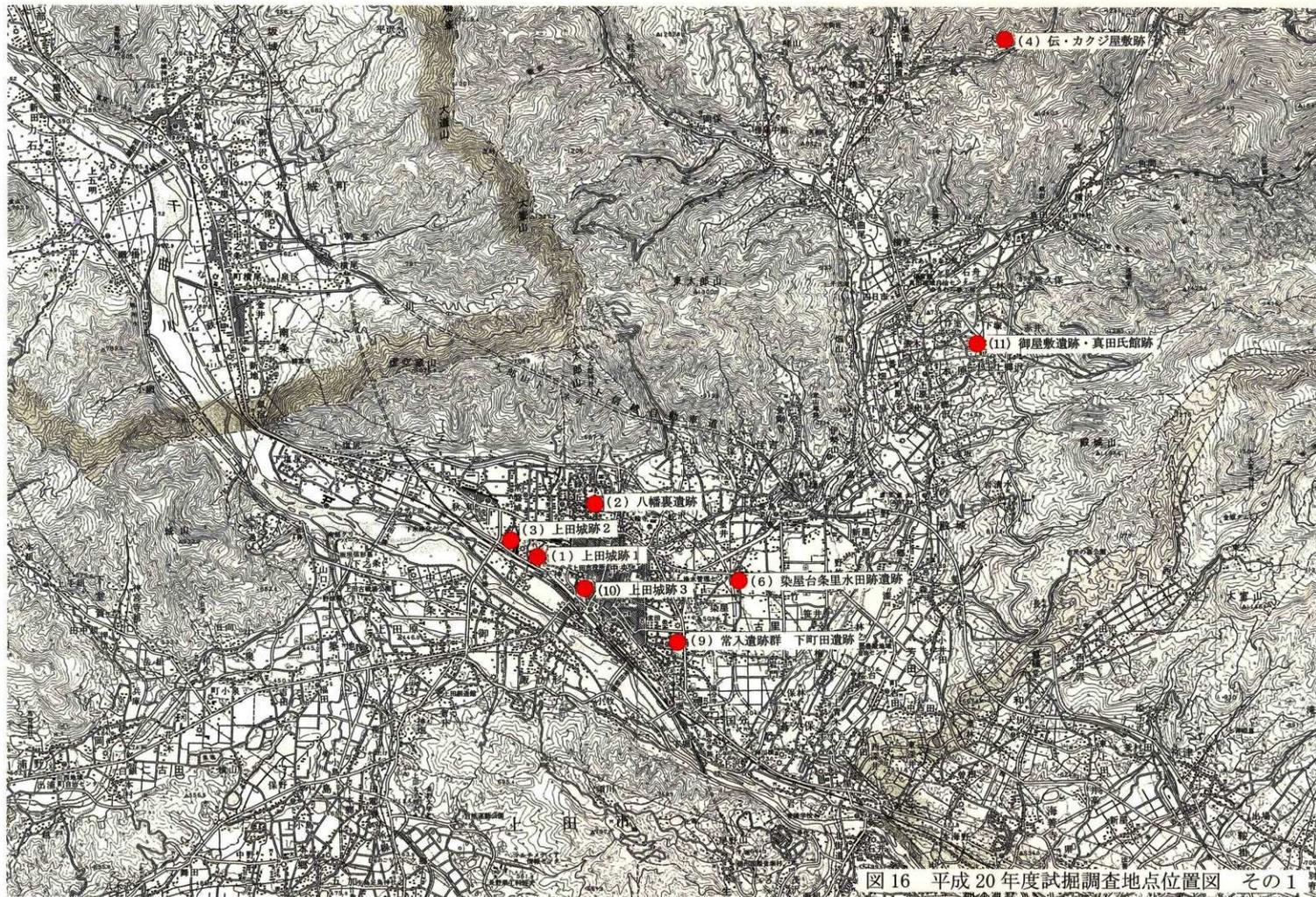


図 16 平成 20 年度試掘調査地点位置図 その 1

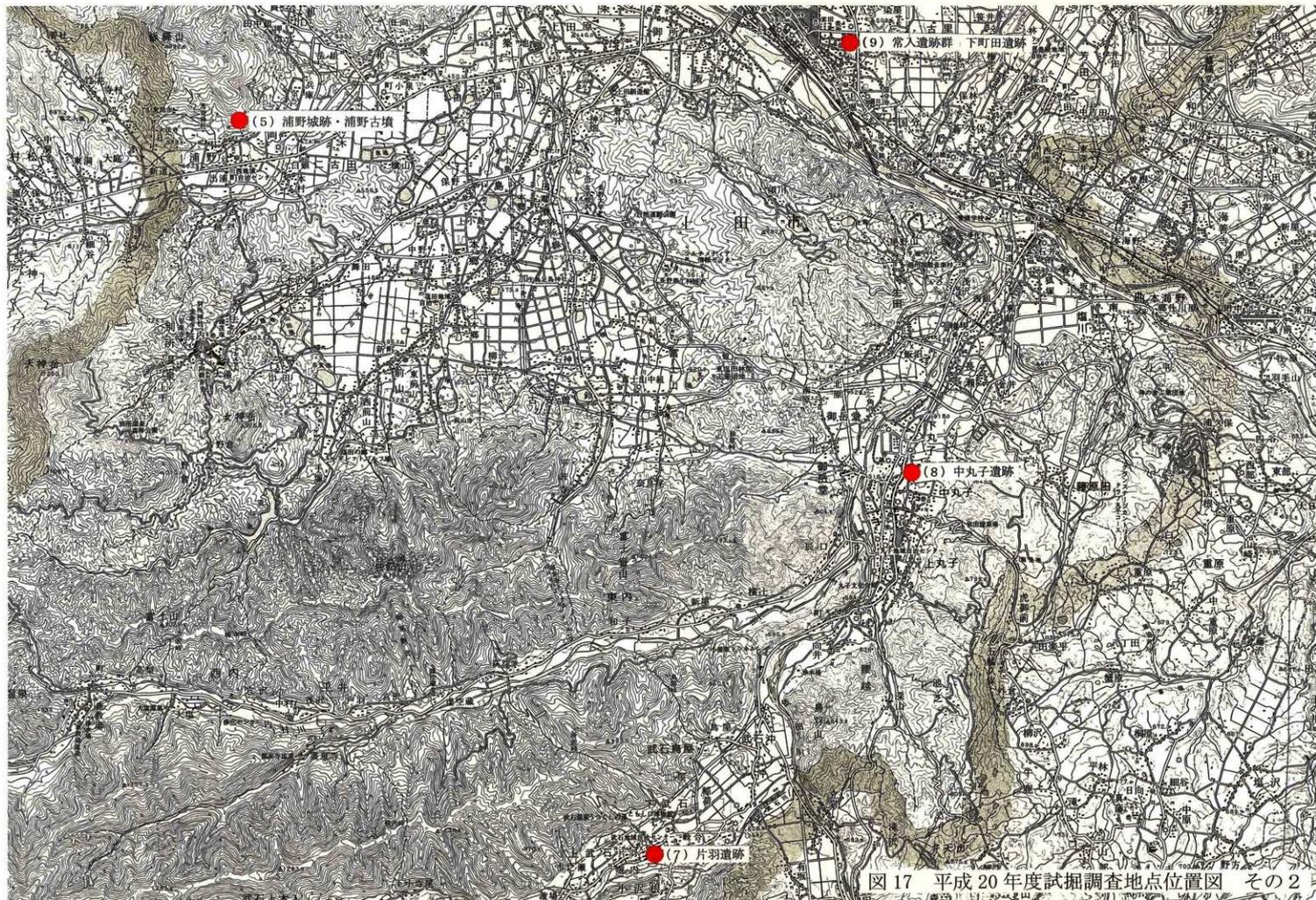
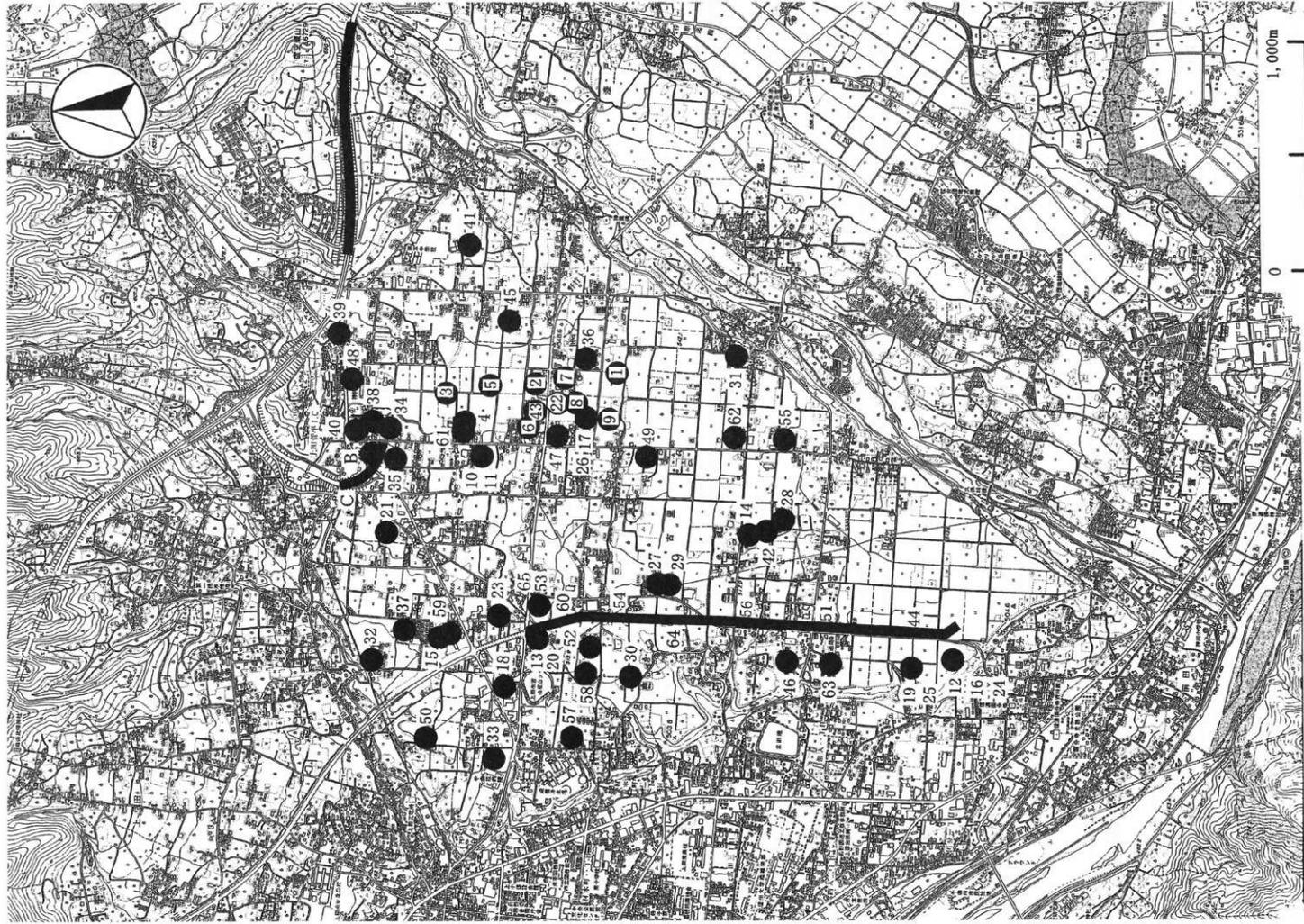


図17 平成20年度試掘調査地点位置図 その2



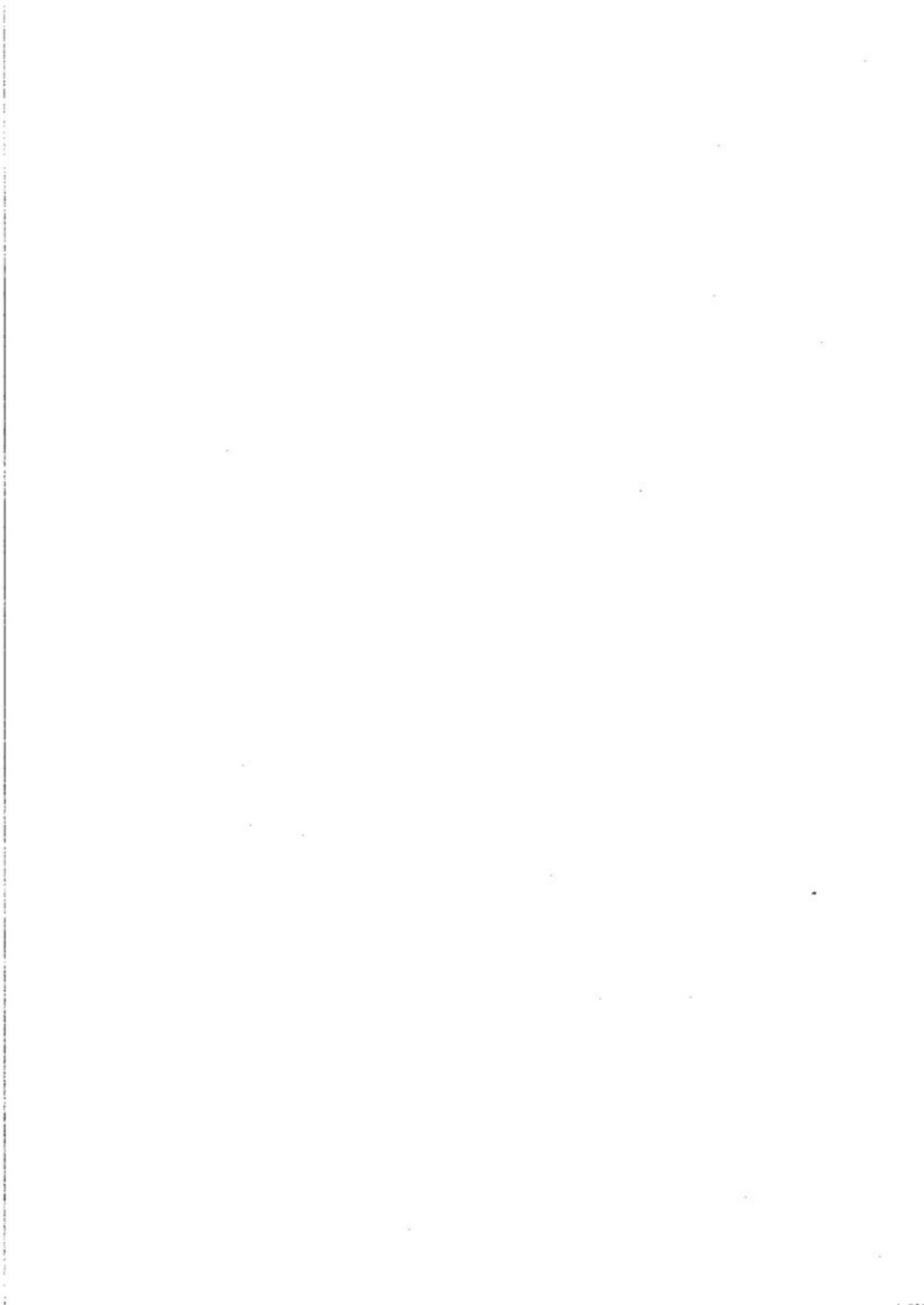
第 18 図 染屋台糸里水跡遺跡における調査状況

No.	年度	遺跡名	調査結果	備考	No.	年度	遺跡名	調査結果	備考
1	S58	国府指定地跡調査Ⅰ(※1)	古墳集積の遺構・遺物		38		染屋台桑里水田跡遺跡1	なし	
2	S59	国府指定地跡調査Ⅱ	西之遺跡跡		39	H15	染屋台桑里水田跡遺跡2	なし	
3	S60	国府指定地跡調査Ⅲ-A地区	弥生・古墳前期と後期の土器片		40		染屋台桑里水田跡遺跡3	なし	
4	S60	国府指定地跡調査Ⅲ-B地区	弥生・古墳前期の陶器断片		41	H16	染屋台桑里水田跡遺跡1	なし	
5	S61	国府指定地跡調査Ⅳ	なし		42		染屋台桑里水田跡遺跡2	なし	
6	S62	国府指定地跡調査Ⅴ-A地区	古墳集積の遺物		43		染屋台桑里水田跡遺跡3	弥生後期・古墳後期の土器片	上田ハイパス2期工事関連
7	S62	国府指定地跡調査Ⅴ-B地区	古墳集積の遺物		44		染屋台桑里水田跡遺跡4	なし	
8	S62	国府指定地跡調査Ⅴ-C地区	古墳集積の遺構・遺物		45		染屋台桑里水田跡遺跡5	古墳時代の土器断片	
9	S62	国府指定地跡調査Ⅴ-D地区	なし		46	H17	西之手遺跡	なし	
10	H2	柳町遺跡	古墳集積の遺構・遺物		47		染屋台桑里水田跡遺跡6	なし	
11	H4	柳町遺跡	なし		48		染屋台桑里水田跡遺跡5	なし	
12	H6	染屋台桑里水田跡遺跡1	古墳遺跡として調査		49		染屋台桑里水田跡遺跡6	なし	
13		染屋台桑里水田跡遺跡1	遺構・遺物等確認		50		染屋台桑里水田跡遺跡7	なし	
14	H7	染屋台桑里水田跡遺跡2	大田遺跡として調査		51		染屋台桑里水田跡遺跡1	なし	上田ハイパス2期工事関連
15		染屋台桑里水田跡遺跡3	なし		52		染屋台桑里水田跡遺跡2	なし	
16		染屋台桑里水田跡遺跡4	遺構・遺物等確認		53	H18	染屋台桑里水田跡遺跡3	なし	
17		西之手遺跡	遺構・遺物等確認		54		染屋台桑里水田跡遺跡4	なし	上田ハイパス2期工事関連
18	H8	染屋台桑里水田跡遺跡	なし		55		染屋台桑里水田跡遺跡5	なし	
19		上沖遺跡	遺構・遺物等確認		56		染屋台桑里水田跡遺跡6	なし	上田ハイパス2期工事関連
20		大田遺跡	中世前期の遺構・遺物		57		染屋台桑里水田跡遺跡1	なし	
21		染屋台桑里水田跡遺跡1	なし		58		染屋台桑里水田跡遺跡2	なし	
22	H9	染屋台桑里水田跡遺跡	遺構・遺物等確認		59		染屋台桑里水田跡遺跡3	なし	
23		染屋台桑里水田跡遺跡Ⅱ	なし		60	H19	染屋台桑里水田跡遺跡4	なし	上田ハイパス2期工事関連
24		古墳遺跡	平安集積の遺構・遺物		61		染屋台桑里水田跡遺跡5	古墳集積の遺構・土器断片	10・11と同じ遺跡か?
25	H10	上沖遺跡	平安集積・中世の遺構・遺物		62		染屋台桑里水田跡遺跡6	なし	
26	H11	西之手遺跡	古墳中期～後期の遺構・遺物		63		染屋台桑里水田跡遺跡7	なし	
27		染屋台桑里水田跡遺跡(1)	なし		64		染屋台桑里水田跡遺跡8	なし	上田ハイパス2期工事関連
28		染屋台桑里水田跡遺跡(2)	なし		65	H20	染屋台桑里水田跡遺跡	なし	
29	H12	染屋台桑里水田跡遺跡(2)	なし		A	H5	染屋台桑里遺跡	なし	上掲自動車道関連 (長野県歴史文化財セ ンター調査)
30		染屋台桑里水田跡遺跡(3)	なし		B		染屋台桑里遺跡	なし	
31	H13	染屋台桑里水田跡遺跡1	なし		C	H6	染屋台桑里遺跡	なし	
32		染屋台桑里水田跡遺跡1	なし						
33		染屋台桑里水田跡遺跡2	なし						
34		染屋台桑里水田跡遺跡2	なし						
35	H14	染屋台桑里水田跡遺跡3	なし						
36		染屋台桑里水田跡遺跡4	なし						
37		染屋台桑里水田跡遺跡5	なし						

※1 「創地の信濃国府跡推定地確認調査」の略。以下同じ。

(報告書等で確認できる調査について記載した。なお、参考にした報告書名は省いた。)

表1 染屋台桑里水田跡遺跡における調査状況





上田城跡 1 (耐震性防火水槽埋設工事)



八幡裏遺跡 (宅地造成計画)



上田城跡 2 (分譲住宅建設工事)



伝・カクジ屋敷跡 (畑の開削)



浦野城跡 (史跡公園整備計画)



浦野城跡 / 1号礎石建物跡 カマド跡



浦野城跡／1号礎石建物跡 礎石と焼土分布



浦野城跡／段郭の調査



浦野城跡／2号礎石建物跡



浦野古墳（史跡公園整備計画）



染屋台条里水田跡遺跡（家電量販店建設工事）



片羽遺跡（児童館建設工事）



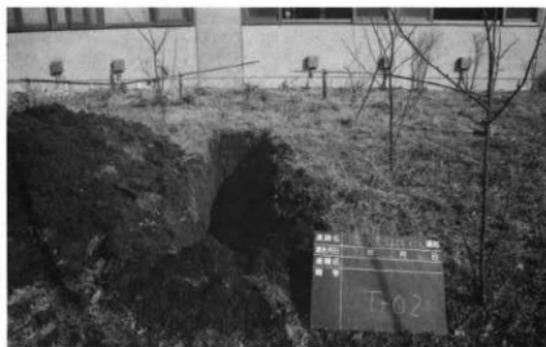
中丸子遺跡（耐震性防火水槽埋設工事）



中丸子遺跡／カマド跡完掘状況



中丸子遺跡／特殊器台出土状況



常入遺跡群 下町田遺跡 (信州大学繊維学部新校舎建設)



常入遺跡群 下町田遺跡 (信州大学繊維学部新校舎建設)



上田城跡3・上田藩主居館跡 (上田高校合宿所改築工事)



上田城跡3・上田藩主居館跡／排水遺構（上は旧合宿所基礎）



上田城跡3・上田藩主居館跡（上田高校合宿所改築工事）



御屋敷遺跡・真田氏館跡（マレットゴルフ場開設）



御屋敷遺跡・真田氏館跡（マレットゴルフ場開設計画）



浦野城跡 出土遺物（かわらけ・常滑焼ほか）



中丸子遺跡 出土遺物（特殊器台）

報告書抄録

ふりがな	しないせき 市内遺跡		
副書名	平成20年度市内遺跡発掘調査報告書		
シリーズ名	上田市文化財調査報告書	シリーズ番号	第106集
編著者名	和根崎剛		
編集機関	上田市教育委員会 (事務局:文化振興課 文化財保護係)		
所在地	〒386-0025 長野県上田市天神二丁目4番55号 電話0268(23)6361		
発行年月日	平成21(2009)年3月24日		

所収遺跡名	所在地	コード		調査開始日	調査対象及び掘削面積(m <sup>2</sup> )		調査の原因
		市町村	市遺跡番号				
① 上田城跡1	常盤城一丁目	20203	上田 66	7月22日	78	26	防火水槽埋設工事
② 八幡裏遺跡	緑ヶ丘一丁目		上田 64	7月26日	9,000	55	宅地造成工事
③ 上田城跡2	常盤城		上田 66	10月30日	2,588	32	分譲住宅建設工事
④ 伝・カクシ屋敷跡	真田町傍馬字横通		真田 203	12月6日	300	18	畑の開削
⑤ 浦野城跡・浦野古墳	浦野字古城		上田 430	12月11日	11,829	139	史跡公園整備
⑥ 染屋台条里水田跡遺跡	古里字大畑		上田 52	12月22日	12,755	30	家電量販店建設工事
⑦ 片羽遺跡	上武石字片羽		武石 20	1月30日	4,300	36	児童館建設工事
⑧ 中丸子遺跡	中丸子		丸子 119	2月3日	72	26	防火水槽埋設工事
⑨ 常入遺跡群 下町田遺跡	常田三丁目		上田 57	2月4日	900	23	学校校舎新築工事
⑩ 上田城跡3(藩主居館跡)	大手一丁目		上田 66	2月6日	115	48	学校合宿所新築工事
⑪ 御屋敷遺跡・真田氏館跡	真田町本原字御屋敷		真田 179	2月12日	1,502	75	マレットゴルフ場開設

所収遺跡名	種別	主な時代	検出遺構	検出遺物	保護措置
① 上田城跡1	城館跡	近世	なし	なし	
② 八幡裏遺跡	集落址	縄文～古墳	住居跡	土師器片ほか	計画具体化後に再協議
③ 上田城跡2	城館跡	近世	なし	なし	
④ 伝・カクシ屋敷跡	散布地	近世以降	なし	なし	
⑤ 浦野城跡・浦野古墳	城館跡・古墳	古墳・中世	礎石建物跡ほか	かわらけほか	整備計画を見直して保護
⑥ 染屋台条里水田跡遺跡	条里制遺構	弥生～近世	なし	なし	
⑦ 片羽遺跡	散布地	縄文	なし	縄文土器片	慎重工事を依頼
⑧ 中丸子遺跡	集落址	縄文～平安	住居跡	土師器片ほか	計画地内を完掘
⑨ 常入遺跡群 下町田遺跡	集落址	弥生	住居跡・土坑	弥生土器片	第2次試掘調査を予定
⑩ 上田城跡3(藩主居館跡)	城館跡	近世	堀跡ほか	瓦片ほか	本発掘調査を実施予定
⑪ 御屋敷遺跡・真田氏館跡	散布地・城館跡	縄文・中世	堀跡か?	なし	工事立会いを実施予定

要約	上田市内において11ヶ所の埋蔵文化財包蔵地で試掘及び範囲確認調査を実施した。
----	--

---

---

上田市文化財報告書 第106集

市内遺跡

平成20年度市内遺跡発掘調査報告書

発行 平成21年3月24日

発行者 上 田 市  
上 田 市 教 育 委 員 会

印刷 一喜堂印刷

---

---